



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

(減農薬・減化学肥料)

令和4年産

目 標		1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																										
種子及び対象品種		生育目標指標 (目標収量540kg/10a)						江刺金札米の土づくりについて																				
1. 種子 全量種子更新	2. 品種 ひとめぼれ	栽植密度 (坪/株)	中干し前 m差数 (本)	最高分げつ m差数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり	稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 金札有機入り春専用一発			稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用)			堆肥施用とあわせた 土づくり			堆肥 + 金札エネルギー										
			460	600	480	60			85%	稲わら + 金札有機入り春専用一発 施用量 80~100kg/10a 施用量 100~120kg/10a			稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用) 施用量 50kg/10a 施用量 45kg/10a			堆肥 + 金札エネルギー 施用量 40kg/10a												
		1株あたり							60	85%																		
		70	22	28	23																							
		60	25	33	26																							
55	28	36	29																									
50	30	40	32																									
作業内容等		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月								
生育ステージ		播種・育苗			田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期		
水管理 圃場管理		畦畔の整備・補修 (環境保全)			水深6~10cm (低温から稲を守る)			3cm前後 (生育促進)			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から幼穂を守る)			間断灌水 (徐々に落水期間を長く)								
作業内容		播種 耕起 堆肥・土づくり肥料散布 基肥散布			代かき 田植え 取置き苗除去 高温障害回避のため、 早期移植は控えましょう! 箱施用剤散布 除草剤散布			中干し・溝切り 必要に応じて 除草剤散布			畦畔草刈り 追肥 葉いもち・穂いもち防除			カメムシ防除			落水 収穫 (出穂後30~40日) 品質確保のため、 適期に収穫しましょう!			秋耕 土づくり肥料散布								
農薬防除体系		タフブロックSP			[箱施用剤] Dr. オリゼ パティート 粒剤 [初中期一発除草剤] 天空			[中期除草剤] ①バサグラン ②トドメMF ③ロイヤント乳剤 ※必要に応じて1 圃場につきどち らか1剤の使用			[いもち病予防剤] コラトップ			[殺虫剤] スタークル ※1回散布														
肥 培 管 理		雑 草 防 除						病 害 虫 防 除						収 穫 ・ 乾 燥														
1. 施 肥		1. 耕種的防除 ○畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 ○代かき~田植えまでの日数は4日以内とする。						1. 耕種的防除 ○カビ・細菌病 出芽温度を28~30℃を目安にする。 ○いもち病：取置き苗除去の徹底。 ○カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬に 畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稻の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。						1. 適期刈り取りの励行 ○バインダー刈り 適期は80~90%が黄化、または穂軸の 1/3が黄化。 ○コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態 (降雨直後、降水中) での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと ともに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。														
2. 薬剤防除		2. 薬剤防除 各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。						2. 薬剤防除 ○種子伝染性病害防除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ						2. 乾燥 ○自然乾燥 収穫後直ちに棒掛けまたは、はせ掛けし品 質保持のため、2週間から20日間を目安 に乾燥する。乾燥不十分の時は機械乾燥で 仕上げる。 ○機械乾燥 収穫後は、直ちに乾燥施設に搬入する。二段 乾燥を行い、乾燥中の籾水分の均一化、過 乾燥の防止、胴割れ粒の混入防止に努める。														
肥料名		薬 剤 名						○種子伝染性病害防除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ						3. 調 製 篩目は1.9mmを使用。整粒歩合80%以上を 目標。														
施用量 (窒素成分量) kg/10a		散 布 時 期						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
新・金札ひとめぼれ		散 布 方 法						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
金札有機入り ひとめぼれ		1 (右記3種類の中から 1剤を選択して散布)						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
金札有機入り 春専用レギュラー		中 後 期 剤 ※選別制						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
有機フレーパー ペースト734		1キロ粒剤						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
コーベースト 222P		トドメMF 1キロ粒剤						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
金札追肥		トドメMF 乳剤						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
金札有機入り ひとめぼれ一発		ロイヤント 乳剤						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				
金札有機入り 春専用一発		イボクサ、 クサネム ノビエ						○種 子 伝 染 性 病 害 防 除タフブロックSP (種子消毒済) 浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。 ○葉いもち+初期害虫防除Dr. オリゼパティート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除コラトップ																				

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用法を守り、散布履歴の記帳を徹底する



農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守ることが基本です。
 散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳しておきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明にもなります。



特に「ドリフト」は注意



江刺金札米 特別栽培米栽培暦

(減農薬・減化学肥料)

令和4年産 (品種切替用)

目 標		1等米比率100%、整粒歩合80%以上、タンパク質含有率6.0%以下																										
種子及び対象品種		生育目標指標 (目標収量540kg/10a)						江刺金札米の土づくりについて																				
1. 種 子 全量種子更新	2. 品 種 ひとめぼれ	栽培 密度 (坪/株)	中干し前 m差数 (本)	最高分げつ m差数 (本)	m穂数 (本)	1穂粒数 (粒)	登熟歩合	土づくりと基肥が 同時施用できる省力的な 土づくり	稲わら + 金札有機入り春専用レギュラー 金札有機入り春専用一発 施用量 80~100kg/10a 施用量 100~120kg/10a																			
			1株あたり							60	85%	稲わら + 金札春一番 (春施用)・秋一番 (秋施用) 金札フジクオー (秋施用) 施用量 50kg/10a 施用量 45kg/10a																
			70	22	28	23																						
			60	25	33	26																						
			55	28	36	29																						
50	30	40	32	堆肥施用とあわせた 土づくり						堆 肥 + 金札エネルギー 施用量 40kg/10a																		
作業内容等		4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月								
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
生育ステージ		播種・育苗			田植え			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期			出穂期			登熟期			成熟期		
水管理 圃場管理		畦畔の整備・補修 (環境保全)			水深6~10cm (低温から稲を守る)			3cm前後 (生育促進)			中干し 溝切り			間断灌水 (徐々に深水)			15cm前後 (低温から幼穂を守る)			間断灌水 (徐々に落水期間を長く)								
作業 内容	種子伝染性病害 防除	播種		耕起	代かき	田植え	取置き苗除去	中干し・溝切り			畦畔草刈り			落水 収穫 (出穂後30~40日)			秋耕											
		堆肥・ 土づくり肥料散布		基肥散布		高温障害回避のため、 早期移植は控えましょう!			箱施用剤散布 除草剤散布			必要に応じて 除草剤散布			追肥			葉いもち・穂いもち防除			カメムシ防除			品質確保のため、 適期に収穫しましょう!			土づくり肥料散布	
農業 防除 体系	タフブロック																											
肥 培 管 理		雑 草 防 除						病 害 虫 防 除						収 穫 ・ 乾 燥														
1. 施 肥		1. 耕種的防除						1. 耕種的防除						1. 適期刈り取りの励行														
肥料名		○畦畔整備・補修による農薬等の流出防止。 ○代かき~田植えまでの日数は4日以内とする。						○カビ・細菌病 出芽温度を28~30℃を目安にする。 ○いもち病：取置き苗除去の徹底。 ○カメムシ対策 ①越冬世代幼虫密度低減のため、6月上旬に 畦畔草刈りをする。 ②水田雑草のノビエ・シズイ・ホタルイ類の 防除を徹底する。 ③水稻の出穂2週間前までに畦畔雑草及び牧 草の刈り取りを行う。						○バインダー刈り 適期は80~90%が黄化、または穂軸の 1/3が黄化。 ○コンバイン刈り 籾の85%以上が黄化。 ★高水分状態 (降雨直後、降水中) での収穫は 極力避ける。 ★刈り取り晩限はバインダー、コンバインと もに、出穂後積算平均気温で1,050℃を 目安にする。														
新・金札ひとめぼれ 30 (3.0)		2. 薬剤防除						2. 薬剤防除						2. 乾 燥														
金札有機入り ひとめぼれ 40~60 (4.0~6.0※)		各剤とも使用上の注意を守り、適期散布しましょう。						2. 薬剤防除						○自然乾燥 収穫後直ちに棒掛けまたは、はせ掛けし品 質保持のため、2週間から20日間を目安 に乾燥する。乾燥不十分の時は機械乾燥で 仕上げる。 ○機械乾燥 収穫後は、直ちに乾燥施設に搬入する。二段 乾燥を行い、乾燥中の籾水分の均一化、過 乾燥の防止、胴割れ粒の混入防止に努める。														
金札有機入り 春専用レギュラー 80~100 (4.8~6.0※)		初 期 剤						○種子伝染性病害防除						3. 調 製														
有機プレーパー ペースト734 40~60 (2.8~4.2※)		初 中 期 剤						タフブロック						篩目は1.9mmを使用。整粒歩合80%以上を 目標。														
コーベースト 222P 25 (3.0)		発 効 剤						浸種は水温12~15℃、期間は7~10日、催 芽は30℃で24時間を目安に実施。 育苗期間中は10℃以下にならないよう管理。																				
追肥 金札追肥 栄養診断による追肥 9~10 (0.9~1.0)		1 (右記3種類の中から 1剤を選択して散布)						○葉いもち+初期害虫防除 Dr. オリゼパディート粒剤 移植3日前~移植当日 (散布後十分に散水)、 側条施用可 ○穂いもち防除 コラトップ																				
基肥一発型 金札有機入り ひとめぼれ一発 50~70 (5.0~7.0※)		2 (右記3種類の中から 2剤を選択して散布)						○カメムシ防除……スタークル (1回防除) 発生源である本田内の雑草をなくし、出穂10 日前の水田畦畔及び周辺の草刈りとあわせて の薬剤防除が効果的です。 散布時期：穂揃期7日後 (豆つぶ、粉剤DL、 顆粒水溶剤、液剤10)																				
金札有機入り 春専用一発 100~120 (6.0~7.2※)		3 (右記3種類の中から 3剤を選択して散布)						○稲いもち防除 コラトップ																				
※窒素成分のうち50%の有機態窒素を含む。																												
●堆肥を1.5t/10a以上投入する 場合、堆肥1t当たり基肥窒素を 1kg程度減肥すること。																												
●食味の低下を防ぐため、減数分裂 期後の追肥はしない。																												

農薬を散布するときは、これまで以上に注意を!!

農薬の使用法を守り、散布履歴の記帳を徹底する



農薬の使用前には、使ってよい作物や使用量、濃度、使用
 時期、総使用回数などを農薬ラベルで確認し、これらを守る
 ことが基本です。
 散布後には、使用した農薬名や散布した量などを記帳して
 おきます。記帳することで成分ごとの使用回数や安全日数の
 確認が容易になり、また、使用基準を守っているかの証明に
 もなります。

